

米国下院「国際事業と人権に関する小委員会」での
中国人民解放軍附属病院の元医師 王国齋の証言

王国齋です。中華人民共和国出身の38歳の医師です。1981年、標準教育を終え、人民解放軍に入隊しました。1984年に、武装警察医学系学校で医療を学び、外科学と人体組織学の研究で上級の学位を取得しました。その後、武装警察天津総隊医院で熱傷災害治療室の専門医となりました。私の仕事は、100名以上の処刑された囚人から皮膚を採取し角膜を摘出することでした。意図的に処刑しそこねた犠牲者の場合も何度がありました。死刑囚からの臓器と組織を売ることに対するために証言するにあたり、自分の行為に対して深い悔恨の念を抱いています。

北京第304医院の北京人民解放軍外科医大学院で死体に関する研究をしている時に、囚人から皮膚を採取することに関わりました。この病院は人民解放軍に直属していたため、医師と軍幹部はとても緊密につながっていました。処刑場から死体を確保するために、治安担当と裁判所に1体につき200～500元を包んだ「赤い のし袋（紅包）」を渡しました。処刑後、遺体は火葬場でなく死体解剖室に手早く運び込まれ、我々が皮膚、腎臓、肝臓、骨、角膜を研究・実験の目的で摘出しました。熱傷患者のために皮膚と組織を保存する方法を学び、皮膚は、熱傷を負った患者のために1平方センチ10円で売られました。

北京での修学を終え、武装警察天津総隊医院に戻り、劉凌風（Liu Lingfeng）主任と宋和平（Song Heping）院長が、中国初の皮膚と組織バンクのために必要な設備の購入を助けました。その後まもなく、天津高等人民法院 捜査課の邢（Xing）課長との関係を確立しました。処刑者からの皮膚の採取は、通常、主要な休暇の時期の前後か政府が弾圧を強化し、囚人が集団で処刑される時期に行われました。邢課長は処刑を事前に我々に通知し、我々は解剖を希望する遺体の数を注文しました。彼には1体につき300元を支払いました。金銭の受け渡しは高等人民法院で行われ、領収書も証拠も取り交わされることはありませんでした。

処刑の予定が通知されると、我々の部門は必要な器具を全て整え、私服で天津北倉火葬場に向かいました。自動車の公用ナンバープレートは全て、民間のナンバープレートに付け替えられました。捜査課からこのようにすることを命じられていたのです。皮膚を採取する前に、犯罪者の手を縛っていた縄を切り、衣類を除去します。犯罪者のポケットにはIDを示す書類が入っていました。処刑者の氏名、年齢、職業、職場、住所、犯罪が明記されていました。これらの書類のどこにも、自発的臓器提供への言及はなく、囚人が死後、自分の身体がどう使われるか認識がなかったことは明確です。

火葬場では手早く作業をする必要がありました。全ての皮膚を採取するのに、1体につき10～20分あれば十分でした。死体の残りは火葬場の職員が引き継ぎました。年間5～8回、多くのチームが病院から処刑場に送り込まれ、皮膚を採取していました。各チームは4体まで処理できました。我々の病院および姉妹病院の需要に応じて皮膚を採取していきましました。おかげで数多くの熱傷患者を治療することができるようになり、我々の診療科は天津で、評判も良く収益性も最も高くなりました。

利潤が非常に高いため、病院側は他の診療科でも同様のプログラムを設定するように促しました。泌尿器科は腎臓移植のプログラムを始めました。手術が複雑なので、腎臓一つにつき 12~15 万円が設定されました。

高額のため、腎臓を購入できるのは、主に富裕層と高官でした。費用が支払える患者に対しての最初のステップは、ドナーとレシピエントの適合を見つけることでした。1990 年 8 月の最初の腎臓移植のために、4 人の死刑囚から採血するために泌尿器科外科医とともに高等法院と刑務所に同行しました。我々をエスコートする警官は、健康状態の確認をすると囚人に告げていました。ですから囚人は採血の目的も、自分たちの臓器が売られる可能性も知りませんでした。4 人のうち 1 人の血液型と亜型がレシピエントと適合するので、この囚人の腎臓が移植に適合すると見做されました。

一度ドナーが確定されると、病院は泌尿器科、熱傷科、手術室のスタッフと打ち合わせしました。予定されたドナー腎臓に合わせてレシピエントの準備をする計画を暫定的に立て、臓器の搬送およびスタッフに関する具体的な問題を話し合いました。処刑の二日前、高等法院から最終確認を受け、処刑の日、処刑所に私服で入りました。朝、ドナーとなる囚人にはヘパリンが注射されました。血液凝固を抑え、臓器摘出を円滑にするためです。軍の職員と囚人全てが処刑所に到着したとき、ドナーとなる囚人は最初の処刑者として前に連れられました。

処刑所では、同僚の邢同義 (Xing Tongyi) と私は、担架を運ぶ役でした。手錠と足かせを嵌められた囚人が撃たれると、執行補佐官が足かせを外しました。邢同義と私は 15 秒で処刑者を救急車に運び入れました。救急車の中には、最高の泌尿器科外科医が腎臓を二つ摘出し、病院で待つレシピエントの元に迅速に戻りました。一方、我々熱傷科のスタッフは、後の 3 人の処刑を待ち、火葬場までついていき、火葬炉の隣にある小さな部屋で皮膚を採取しました。

我々の主任は天津市眼科医院と北京 304 医院と業務提携があったため、処刑者の角膜も摘出するように指示されました。

その後の数年間、100 回近くこの手順を踏みました。しかし、1995 年 10 月の出来事から私は良心の呵責に耐えられなくなりました。我々は腎臓を摘出し皮膚を採取するために、河北省に送られました。処刑の 1 日前に到着しました。窃盗と目撃者の殺害で死刑宣告された男性の囚人でした。処刑前に血液の凝固を抑えるヘパリンを注射しました。身辺警護の警官が処刑で不要に苦しまないための鎮静剤だと彼に告げました。囚人は政府にお礼を言いました。

処刑所で執行司令官が「発砲」命令を出し、その囚人は地面に倒れました。死刑執行人の手が震えていたのか、的をはずしたのか、臓器を傷つけないようにわざと射撃しなかったのか、囚人は死んでいませんでした。地面に横たわり痙攣していました。我々は彼を救急車には混むように命令され、そこで泌尿器科外科医の王志福 (Wang Zhifu)、趙慶齡 (Zhao Qingling)、劉啓友 (Liu Qiyou) が腎臓を手早く的確に摘出しました。摘出後も囚人は呼吸しており、心拍も続いていました。処刑執行司令官が、息の根を止めるためにもう一発射撃しようかと尋ねたところ、裁判所職員が「弾を節約しろ。腎臓は二つ取った。生存するわけではない」と答えました。泌尿器科医たちは腎臓とともに病院に急いで戻

り、裁判所職員も処刑官もその場を離れました。最終的に武装警察官も去りました。熱傷外科医だけが、皮膚を採取するために救急車の中に残されました。救急車の外で人々の声が聞こえました。処刑者の家族が中に押し入ることを恐れ、我々は作業の途中で半死状態の身体をビニール袋に入れ、火葬場のトラックの荷台へ投げ入れました。救急車を出る時、後ろから石が投げつけられました。

この後、恐ろしい悪夢を何度も見ました。中国政権の政治的・経済的目標のための臓器摘出に私は数多く参加してきました。患者に利益をもたらすことはこの悪行に匹敵しません。私は処刑場では十数回作業し、火葬場では100人以上の囚人の皮膚を採取しました。熱傷患者や移植患者の生活を向上させたとしても、この非倫理的で非道徳的な臓器摘出が許されることではないでしょう。

臓器売買にはこれ以上参加しないと決意し、妻も私の決意を支持してくれました。別の仕事に割り当ててもらおうよう文書で要請しましたが、この要請は、私の能力に見合う仕事は他にないという理由から拒否されました。私は処刑場と火葬場に行くことを拒否し始めました。これに対して、病院は私を責め、批判しました。臓器摘出と臓器と皮膚が保存され高い利潤で売るなどの悪行について、一切口外しないという誓約を強制的に提出させられ、口外すれば過酷な仕打ちが待っていると脅かされました。そして私の代わりになる者を養成し始めました。私が中国を2000年春に出国する日まで、処刑場での臓器収奪は続けられていました。

この邪悪な臓器摘出を停止する助けとなることを願い、これら全てのおぞましいことをここに露呈します。